

路線バスの滝川 奈井江線廃止について

公正会・
市民の声連合

沢田 広志

問 北海道中央バスが運行している滝川奈井江線の路線バスが、令和8年9月30日の運行を最後に廃止されるようですが、廃止に至る経緯、住民への影響や今後の対応等、市の考えを伺います。

答 北海道中央バスから乗務員確保が困難な状況が深刻化し、運行便数の見直し・削減を行わざるを得ず、利用状況やJR函館本線が並行している沿線環境も鑑み、路線廃止を検討するに至ったとの説明を受け、令和7年11月の社会経済委員会でも報告しました。

また、市内を運行している路線バスは、「滝川奈井江線」のほか、「歌志内線」を沿線自治体で協調して運行収支不足額に対する支援をしています。たとえ資金的支援が強化されても、厳しい状況と伝えられています。

廃止の影響ですが、北海道中央バスが実施した10月の乗降調査では、利用の少ない便では滝川奈井江間での利用者が1名であり、



中央バス滝川奈井江線バス停留所

通勤等の利用者が多い便では23名となり、平日・休日や時間帯で利用状況に大きな差が見受けられます。「滝川奈井江線」は、沿線市町間での移動、市内での乗降も相応にあり、一定程度路線廃止の影響はあると考えています。

今後の対応及び市の考えは、バス路線は地域公共交通を支える要素の一つで、沿線住民の利便性が失われることがないよう、本市・奈井江町・滝川市の沿線市町、北海道空知総合振興局等で構成する検討会議等で対応協議したいと考えています。

乳幼児支援について

日本共産党

高田 浩子

問 砂川市の乳幼児支援の内容について伺います。

答 1歳6か月健診・3歳児健診・子育てに関わる相談支援などを進めています。また、市独自の事業としては、保育所・幼稚園等の保育における負担軽減事業や子育て関連用品購入に利用できる「乳児すこやか応援クーポン券支給事業」（乳児1人あたり最大6万円）や北海道子ども国保税施設（ふ）の保護者入園料が無料となる「ふしぎの森利用料無料クーポン券支給事業」などを実施しています。

問 乳幼児支援に関わる周知について伺います。

答 事業・制度などを集約した「子育て支援のしおり」を毎年作成し、転入届・出生届の提出の際に市窓口で手渡しするほか、ホームページでの周知、子ども家庭センターでの案内、母子手帳アプリで情報を閲覧できる等環境を整えており、事業実施の際は対象世帯に案内・周知しています。

問 チャイルドシート・ベビーベッド・ベビーカー等の乳幼児用品の貸出しについて伺います。

答 チャイルドシートについては平成12年から市民から提供を受け、現在は5台を保有しており、6か月を限度に年間15件程度貸出しています。乳幼児用品の貸出しについてもニーズを把握し、今後も子育て支援に努めていきます。

問 高校生懇談会で要望があった乳幼児用品の貸出しについて、まずは、費用の一部助成を要望します。



ほかに「ヒグマ出没時の対応について」質問しました。

ヒグマ出没時における 情報連携等について

公正会・
市民の声連合
武田 真

問 市内ではヒグマの出没が相次ぎ、小・中学校では休校や送迎対応がされました。一方、砂川高校には市外から通う生徒も多く、地理等の知識が十分ではなく危険にさらされるリスクがあります。

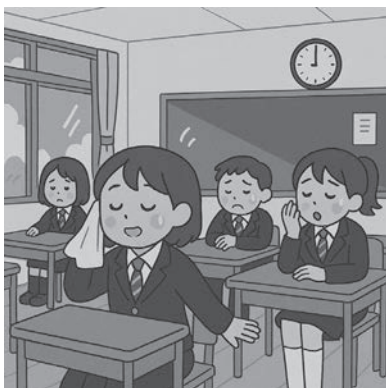
そこで、小・中学校の対応の総括と高校との情報連携の現状等について伺います。

答 小・中学校での対応については、文部科学省の通知を踏まえ、関係機関との危機管理体制は図られたと考えますが、見守りを行う教職員の安全確保にはどのような方策が可能か検討していきます。

高校との情報連携は、教育委員会で情報の一元化を行い、各校の校長等で構成されるライングループで情報連携をしています。

問 高校入学時のオリエンテーション等の場で生徒等にも説明が必要ではないか伺います。

答 出沒等の情報を蓄積したものがありますので、それらを整理した中で情報連携をしていきます。



砂川高校の学習環境 等の改善について

問 砂川高校では、近年の猛暑により学習環境が悪化しています。

空調設備の不足は入学者確保にも関わる課題です。支援強化に向けた考え方について伺います。

答 高校とは、情報共有を図り状況を把握しています。現状の設備では効果が限定的であることから運用の工夫が必要であり、快適で安全な学習空間を確保できるよう今後も高校と連携していきます。

砂川高校への支援について

公正会・
市民の声連合
小黒 弘

問 砂川市議会は議会懇談会として砂川高校の2年生43名と懇談を行いました。とても積極的で前向きな意見が出されました。

「制服への補助」「タブレット購入への補助」について伺います。

答 支援する事業メニューとしては、あくまでも教育という理念に立脚し、福祉的な要素が含まれるものとは区分しながら支援しています。制服購入は支援項目の対象とはしていません。

また、タブレットの購入支援につきましても、学習意欲につながるものや技術や技能といった将来にわたり役立つものを支援メニューとしていきますので、支援の対象ではありません。

問 砂川高校は市外から通学する生徒が多く、通学時の交通費が負担になっているようです。交通費への補助について伺います。

答 通学に係る支援については、福祉的な要素として捉えております。また、市外在住の生徒の家計

状況が把握できないことから交通費については支援の対象としていないところです。

問 砂川市は毎年約800万円の支援を予算計上していますが、半分ほどしか使われていません。学校側とニーズの調整はどのように行っているのか伺います。

答 これまでは校長、教頭先生と協議をしてきましたが、支援の考え方や内容などを教職員や生徒の皆さんに周知するため、その方法を学校と協議しながら市の支援を有効に活用していただきたいと思います。

